

<概要>

孤島のデモクラシー: 仏領ニューカレドニア・ウヴェア島の^{エスノグラフィ}生活史から

佐藤 幸男

世界は未曾有の混乱のなかにある。貧困、人種、差別、分断、格差、パンデミック、ウクライナ戦争、イスラエルによるパレスチナ弾圧、ジェノサイド、そして「グローバルサウス」とよばれる非西欧世界の勃興。奈落の底で民主主義もまた機能不全となっている。世界的な不平等の拡大、世界規模での労働力搾取、移民の排斥、人種差別が跋扈するのは、「制度としての民主主義」だけでは機能しないことをしめしている。人びとが自由に自発的に参加し、討議し対話するコミュニティの不在に起因する。いわば「民主主義は西欧起源である」という観念を捨て、ローカルにつながり合いながら生きる方法（周辺/辺境/底辺）としての民主主義に着目してみる。

第1に、「太平洋」という海域世界はのどかさの象徴として語られ、宗主国や国際機関からの援助なしでは成り立ち得ず、財政支援に支えられた「太平洋流儀」に飼い慣らされた思考や惰性とは異なる自律的生活世界に内在している民主主義に光を当てた。いわば、人間経済（human economics: グレーバー）のなかに民主主義の基盤であるコミュニズムに注目したい。

第2に、本報告の舞台はフランス植民地ニューカレドニアである。オーストラリア東方にある四国ほどの大きさの島でバケット型の本島とロイヤルティ諸島からなるフランスの海外領土、植民地であるニューカレドニアには人口約27.5千人、首都ヌメアで人口20万人が暮らしている（2023年現在）。「カナク」とはフランス人が太平洋先住民の総称として用いる侮蔑語から転化した呼び名であるが、ここに植民地体制が確立する。それは「近代」の荒ぶる力が凝固した植民地化プロジェクトにほかならない。まず先住民カナクの土地収奪から始まり、いまでは本島のわずか8.48%しか保留地が存在しておらず、フランス人資本家や経営者及び混血の「カルドッシュ」と呼ばれる人びとがヌメア中心に集積して暮らし、労働者となった先住民は北東部に暮らすという地形的な分断が形成されている（先住民40%強、フランス系40%弱、ウォリス系10%弱、その他アジア系）。

第3に、もうひとつの舞台がウヴェア島（Ouvea）である。ここは、ロイヤリティ諸島に位置し、人口4千人程度の三日月型をした「孤島」である。その村の中心地はファヤウェ村で、『天国に一番近い島』として名高いところであるが、ここは伝統的な村落共同体で、先住民が土地の所有者であり、伝統的な首長のもと固有の社会構造を維持しながら、古い慣習

を守り先住の知恵を保持して暮らしている。固有の文化を背景にして同化に異議を申し立てて反抗、独立を志向する島であることを忘れるわけにはいかない。この島で繰りひろげられる Human Economics（富を蓄積することに求めず、人間存在の再構成、相互扶助、共同体主義）に注目するのは、2022年8月24日から9月4日までに現地で得られたフルド調査の知見の結果である。それは、権力やルールに縛られることなく、国家・宗教・地域・職場・地縁・家族に基づく法や・制度・しきたりといった社会のあらゆる常識や規則、決まりからも自由な状態を自分の生活の中に作り出すことを希求する考え方にほかならない。

現代に行き詰まった人間の豊かな生き方が根付くウヴェア島には「国家なき空間」がある。フランス植民地支配170年の歴史からも分かるように、ウヴェア島はフランス政府による暴行・殺害、拉致事件が多く、辛酸を舐め尽くしてきた島である。そのなかでも、アルジェリア戦争に続いて1984年ヤンゲン暴動に緊急事態法（テロに武力をもって弾圧する島民が殺戮された）が適用されたことは記憶に留めておくべきであろう。

環境に適合して生きる先住民社会特有の生活圏、自然資本の経済が持続可能性を生み出している、このウヴェア島内には侵入禁止区域が設定され、伝統的な入村儀礼を欠かすことがないことから「未開社会」という暗黙の想定が前提となりがちであるが、しかし、近代的なシステムが機能不全となり、市井の人びとが制度的裏付けなしに共同体の合意を形成する作法を観察することができる。いわば、国家なき社会のもとで秩序が維持される人間の潜在的な力への信頼が新しい社会の諸制度を創造しはじめるプロジェクトを発見することができ、「Human Economics」の実践の地となっている。それを端的に表現するのはアナーキズム、相互扶助、共生論であり、その思想的源泉、発芽がこの地であることを再認識したい。生活世界の植民地化に抗する横断的な「民衆的なもの」に着目する視点にも底通しているようにも見えた。

——>民主主義の起源は、複数の文化や民族、階級や身分が交差する「あいだ」にこそ存在するとはいえないか。機能不全は民主主義という仕組みにではなく、国民国家のほうなのではないのか。

以上